

ふるさと紹介動画作成を活用した社会教育プログラム

富加町教育委員会 教育課

1 はじめに

富加町は、奈良正倉院に残る最古の戸籍「大宝二年（702）御野国加毛郡半布里戸籍」の故地として、古代史において非常に注目されてきた地域である。町内には多くの古墳が所在し、遺跡の発掘調査も継続的に実施している。近年では、平成21年度から4ヶ年で発掘調査を実施した「夕田茶白山古墳」が、岐阜県最古の前方後円墳と判明し、平成27年3月には岐阜県史跡となった。また織田信長の美濃攻略に深く関係した戦国山城「加治田城」「堂洞城」があり、それに関わる史料も豊富に残っている。特に「堂洞城」を巡っての織田勢との攻防戦は、地域に多くのドラマを生んだ。そういった地域に残る物語と実際の史料を検証し、両者を織り交ぜた歴史PRマンガ「夕雲の城」を平成29年3月に刊行した。

また、地域に残る歴史遺産を保護・保存し、社会教育や学校教育の場面において有効に活用する事を目的として平成7年に富加町郷土資料館が建設された。当該施設を拠点に上記の歴史遺産の積極的なPR事業を展開している。特に子ども達が幼い頃から故郷の豊かな歴史に親しめるよう環境を整えながら「ふるさと学習」にも積極的に活用してきた。

2 動画の作成と発信を社会教育プログラムに

富加町教育委員会では今年度から、地域の方々と協働で、ふるさとの歴史的な魅力を動画で撮影し、それを発信するという企画をスタートした。平成29年度に発足した「半布里文化遺産活用協議会」に活動の母体となっていただいている。学習の目標としては、地域の歴史を紹介した動画を作成して一般公開することであり、公開にはYouTubeを利用した。

ただ動画を撮影するだけではなく、動画づくりの過程を社会教育プログラムとすることを目的に設定した。つまり、参加者が他者へ紹介するという活動を通して、町の歴史遺産を見なおし、あらためて自分達が住む地域の良さを再確認し、郷土との心的な繋がりを見つめ直していく。当然、作成者は富加町の歴史を学ばなくてはならないし、どこが魅力なのかをあらためて客観的に考えることにもなる。

また、学習を通じて地域文化や文化財の保護意識の高揚を図り、今後の担い手づくりに繋げていくことも期待している。高齢化に伴い地域の文化財を地域総掛かりで守っていく必要が生じているが、今回の活動がその布石になればとも願っている。

また成果品はDVD等で地域の小中学校へ配布し総合的な学習等で利用してもらう予定である。文化遺産活用協議会員が主体として対象とする文化財等を決定し、それについての調査や学習を行う。

さらに、この活動には県立関高等学校地域研究部も協力していただけることとなった。

■プログラムの展開■

対象	文化遺産活用協議会	対象	関高校 地域研究部
学習活動	「とみか歴史チャンネル」 富加町の歴史の魅力をPRする動画を作成しよう！	学習活動	富加町の歴史PRサポート活動
回	内 容	回	内 容
1	ワークショップ	1	ワークショップ
2	学習会1（講師：学芸員）	2	学習会（講師：学芸員）
3	学習会2（講師：学芸員）	3	ワークショップ（PR方法検討）
4	事前合同検討会		
5	PR動画撮影		
6	動画の確認と振り返り・今後への展望についての検討		

成果の公開	DVD化し学校等へ配布。（教育利用を図る）
	YouTubeにて一般公開 → 広報・記者発表。（まちのPRに繋げる）
	動画発表会の開催。（関係者による見所PRと制作秘話など）



事業は令和2年10月から開始した。最初にワークショップを開催し、町の魅力は何か、どのように発信していくかなどについて意見を出し合い、活動の方向性を確認した。

その後、動画作成のための事前調査を実施した。町の学芸員を案内人に招き、山城や古寺を巡り、その地の文化財や歴史を学習した。

高校生たちは、踏査から戦国時代の歴史をまちづくりに活かす方策を考え、成果をまとめて発信してもらうことになっている。



2 今後の展開

動画はまだ少しずつしか配信できていないが、参加者がとても楽しく学んでくれている。学芸員がサポートしているが、説明原稿などは基本的に参加者が作る。学んだことを活かしてとてもしつ

かりと作っているのが印象的だ。左のQRコードから動画を観ることができるので、ぜひご覧いただきたい。

富加町では2年後に地域学校協働活動がスタートする。そこへ合流し、本活動で育まれた実績や人材が活かされていくことを希望している。

